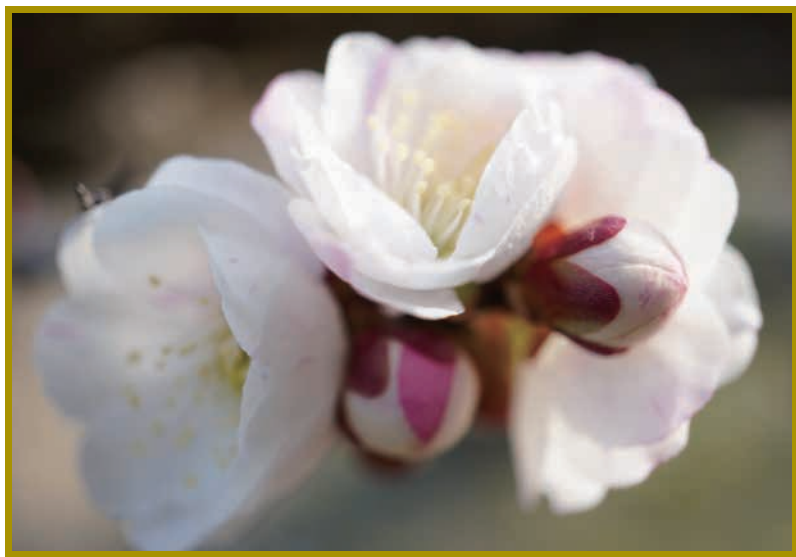


# 新 生

令和五年三月 十日印刷  
令和五年三月 二十日発行



東北新生園入所者自治会

新生第七十五巻 第一号

新 生

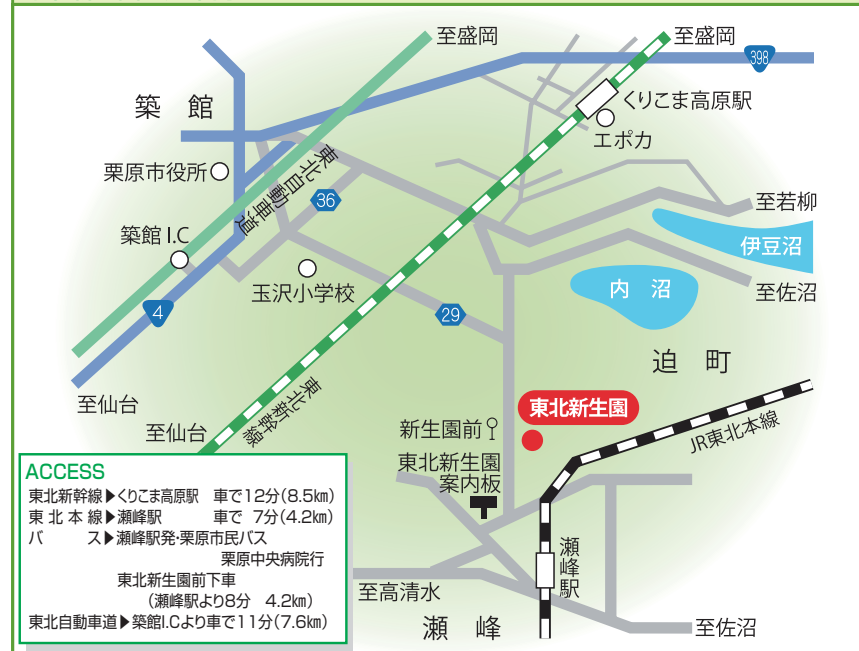
令和五年三月 十日印刷  
令和五年三月 二十日発行

第七十五巻 第一号

## 東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	22,740㎡
開 園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	185床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男9名 女23名 計32名
職員定員数	136名(令和4年4月1日現在)
園 長	医学博士 横 田 隆

## 東北新生園交通案内図



各センター協同作品



園内日誌

令和四年 十月〜十二月

《十月》

十一日 セラピー犬とのふれあい

《十一月》

八〜十日 収穫祭（抽選会）  
二十二日 千本桜達成の記念植樹式典

《十二月》

一日 クリスマスイルミネーション点灯式

【謝寄贈図書欄】

令和四年 十月〜十二月（敬称略）

多磨	東京都	多磨全生園
菊池野	熊本県	菊池恵楓園
愛生	岡山県	長島愛生園
青松	岡山県	大島青松園
始良野	鹿児島県	星塚敬愛園
訴歌	あなたはきつと橋を渡って来てくれる	
熊本県	株式会社	皓星社

令和5年3月10日 印刷  
令和5年3月20日 発行

発行集刷 東北新生園楓会(自治会)  
編 刷 楓会文化部  
印 刷 川内印刷株式会社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

発行所 東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)  
東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第七十五卷第一号……………目次

表紙：「春の訪れ・白梅（高松宮妃殿下御来園記念植樹梅）」

：撮影 事務長 加藤 久 弥

年頭によせて…………… 楓会会長 久保 瑛二 (2)

思い出・退職のご挨拶…………… 事務長 加藤 久 弥 (4)

お世話になりました…………… 副総看護師長 古川 喜美子 (11)

定年退職を迎えて…………… 栄養係長 中里 敏浩 (14)

随筆「千畳敷海岸の旅」…………… 栄 斎 藤 照雄 (16)

令和四年・五年 年末年始メニュー…………… 栄 養 班 (18)

|| 新 生 文 芸 ||

詩…………… 選 者 佐々木 洋一 (19)

短歌…………… 選 者 川 二郎 (21)

俳句…………… 選 者 山 田 桃 晃 (23)

川柳…………… 選 者 菅 原 隆 子 (25)

千本桜達成の記念植樹式典を終えて…………… 福祉室長 菅 原 政 敏 (27)

定年退職を迎えて…………… 副看護師長 川 野 久美子 (30)

思い出…………… 看護師長 川 野 京子 (32)

定年退職を迎えて…………… 看護師 高 橋 あけみ (34)

四コマ漫画「反対ことば」10回クイズ…………… 看護師 太 田 凜 (36)

園内日誌・謝寄贈図書……………

## 年頭によせて

楓会会長 久保 瑛 二

令和五年の年頭にあたり謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は会員の皆様をはじめ、多くの方々の暖かい御指導と御支援を頂き、会務を果たすことが出来ましたことを心より御礼申し上げます。

さて、当園の先行きを考えると、今、私どもの会員の平均年齢は既に八十九・三歳を越えて高齢化と不自由度の亢進、寝たきり老人や成人病などの合併症の急増という多くの身近な問題を抱えて、不安と焦燥感に駆られる日々であります。

特にこうした現実の課題とも言うべき将来の対策として、この要望を検討するときに入所者の動向の中では、とみに最近の変貌の一端は不自由者棟などにおける老人問題の環境が年々増加の一途をたどる老人痴呆であります。おそらく各施設においても深刻な状況になりつつあるのではと思うとき、誠に憂慮すべき事態になったものと我々を巡るところの環境の変化に、今

後我々ハンセン病療養所の推移を考察するとき、こうした事態に対応するためにもまた言うまでもなく、高齢化現象は様々な形で進み、よく言われることであります。しかし、超高齢化集団に変貌を余儀なくされつつある現状においては、今後における医療施設整備計画、また、介護の内容等について、討議する必要があるのではと思っております。

また思うに、療養所と地域の共生を目指しての構想の一環として、居住者様のほど近くに、千平方メートルの敷地（空き地）へ、ハンセン病の歴史や園での暮らしを紹介する展示施設を設け、更には物故者を偲ぶ慰霊塔を建立したく考えております。

施設と入所者は平成十四年、生活環境の充実や過去などを策定し、登米市、宮城県、住民代表等と東北新生園の将来構想を進める会を結成し、話し合いを持って啓発活動や地域の共生の在り方など協議を続けているものの、コロナウイルス対策で園内見学は休止中ですが、今はその一環として、去る十一月に千本目（ジンダイアケボノ1・5メートル）を植えたところです。目的は、園で生涯を閉じた入所者を慰霊するものとして、二〇一〇年に始めたもので十年は長い月日でした。今年の桜は見事に咲き誇ることと思います。さくら財団を始めとし、多くの善意を寄せていただいた岩手大学のOBの方々、キャンパスの方々に御礼申し上げ、年頭の挨拶と致します。

## 思い出・退職のご挨拶

事務長 加藤 久 弥

コロナ禍において

令和二年四月に事務長に就任しましたが、新型コロナウイルス対応に終始した三年間だったように感じます。新型コロナウイルス接種は五回を数えます。

二〇二〇年一月に日本で初めて新型コロナウイルスが確認されてから三年が経過しました。世界で七億人近くが感染した新型コロナウイルスの流行が止まりません。新しい生活様式も当たり前の生活様式になり、密の回避や手洗いといった基本を忘れずに人と会うのにマスクが欠かせなくなりました。新型コロナウイルス感染症は流行と消退を繰り返し、私たちの日常に大きな影響が生じました。

入所者の皆様にも買い物や園外レク、面会、外部団体との交流イベントなど我慢を強いられる日々が続いています。

数々の対策の切り札をもとめせずに、姿を変えた新型コロナウイルスの波状的な攻撃に翻弄されてきましたが、今年こそ新型コロナウイルスが終息して、新たなスタートが切れることを願うばかりです。

こんなコロナ禍において、特に感じたのが「和顔愛語」です。すでに、おなじみの言葉かも知れませんが、「和顔」には『おだやかな表情』、「愛語」には『こころやさしい言葉』という意味がありますので、ポジティブな言葉といえます。つまり、文字通り、笑顔で愛情のこもった言葉で話すことです。

コロナ禍で、辛いときや愚痴をこぼしたくなつた時、そんな時こそまず自分から笑顔と優しい言葉で接する姿勢を大切にしたい三年間でした。

\*米ジョンズ・ホプキンス大学集計

## 四季を彩る花々と野鳥

コロナ禍だからこそ求められる自然が、この地に広がっています。新生園の春は、白梅・紅梅から始まり、サンシュユ・桜、裏山では、ニッコウキスゲや山百合が咲き誇り、夏には百日紅、池の蓮が鮮やかさを増します。秋には、曼珠沙華・コスモス・金木犀・秋明菊・紅葉等、一段と美しい景色をもたらしてくれます。新生園で数多くの山野草にも巡り会うことができました。「新生」の表紙には、四季それぞれの花々や野鳥等の写真を掲載していただき、うれしく存じます。

十一月上旬頃からの新生園、夕刻の空は感動的です。雁が隊列を組んで、ねぐらの沼に帰ります。雁の隊列は、「V」の字形で、何隊も、何隊も…。伊豆沼の朝、日の出とともに朝焼けの空を雁が一斉に飛び立つ光景は、まさに壮観。万雷の羽ばたきと甲高い鳴き声は言葉を超えます。そして、落ち穂を求め新生園の上空を飛ぶ姿には愛着さえ感じます。

(新生園上空を飛ぶ  
雁の群れ)



(スイレンの池でくつろぐ  
オオハクチョウ)



自然豊かな景観を目にしつつ、鳥の鳴き声を聞きながら季節毎に咲く山野草の自然な美しさを楽しむことができました。

環境白書によりますと、近年、環境問題が広範化・深刻化しております。従前から地球環境の危機は騒がれていましたが、気候変動や資源の大量消費、生物多様性の損失等強い危機感をもって対処すべき時です。先行き不透明な時代ですが、この新生園の豊かな自然が持続可能であって、将来世代が希望を持つことができる場所であるようにと願っています。

園内のスイレンの池にも柔らかな春の日差しが降り注ぎ、水面では二十羽ほどのハクチョウたちが水草をついばんだり、羽を広げたりして春の光を満喫しています。そして、間もなく北へと飛び立ちます。  
新生園の豊かな自然に囲まれた中で、最後まで勤務できたことは深謝のかぎりです。



社会交流公園・三重の塔イメージ

#### 社会交流公園整備と千本桜

令和二年八月に、当園将来構想を見直し新たに「歴史・慰霊・資料」ゾーンを創設しました。当該将来構想に基づき施設整備予算を獲得し、令和四年度から社会交流公園の整備を始めたところです。

社会交流公園は、療養所と地域の共生を目指す「将来構想」の一環です。入所者皆様の慰霊と憩いの場であり、社会交流の場です。物故者をしのぶ慰霊塔（三重の塔）を建立します。ハンセン病の歴史や園での暮らしを紹介し、来場者に対してハンセン病の啓発につながる場となります。

令和五年度内の完成建立を目指しています。様々な人たちの願いや思いを込め、『優しさや愛にあふれた計画に』との思いを込めました。過去と現在、未来を繋ぐ社会交流公園が、季節の移り変わりと共に様々な魅力にあふれ四季の彩りには欠かせない存在であって欲しいと願っています。

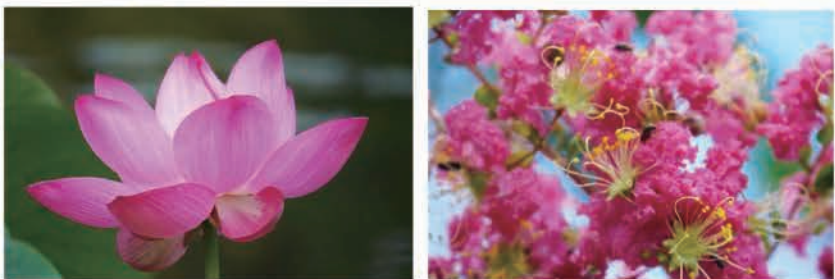
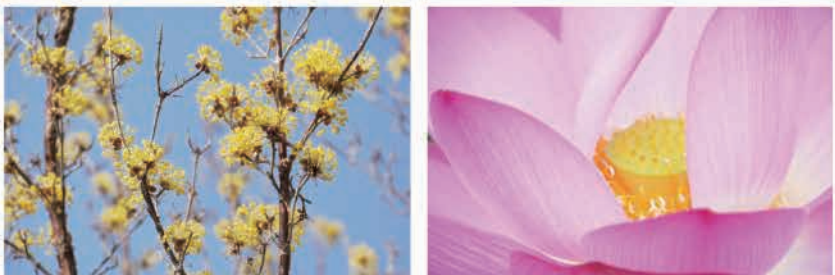
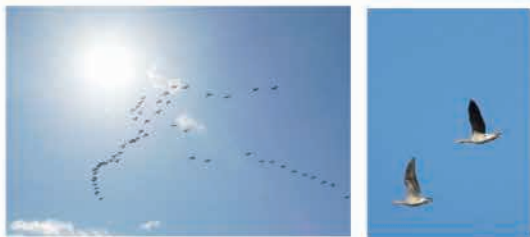
また、令和四年十一月二十二日に、当園千本目となる桜『ジンダイアケボノ』を植樹しました。桜植樹計画を策定し計画の効果的な展開と推進を図り約一五〇本の桜を植樹、千本を達成できたことは、まさに感無量の一言です。今後は、維持管理を徹底し「桜の里」として地域や社会へ開放し共生していければと思います。

#### 定年退職にて

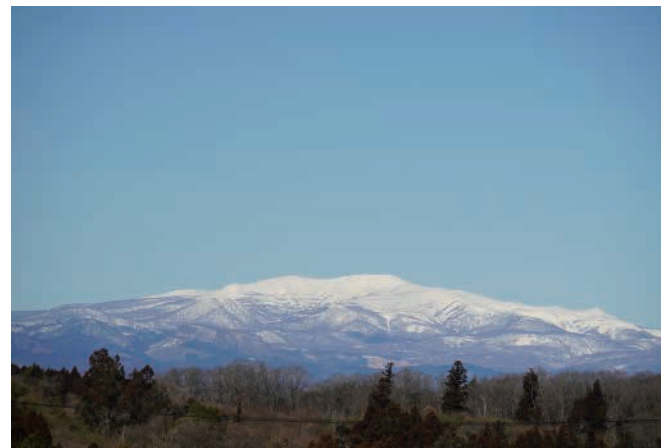
長らく単身赴任生活を続けてきましたが、そろそろゴールが見えてきました。新生園を含め十一箇所の施設で勤務し、各施設で経営改善等に奮闘した日々が懐かしく心に残っています。また、赴任先では新たな土地での人々の出会いや美しい自然と郷土文化、美味しい食べ物を堪能できたことも良い思い出です。これからも出会いと別れを経験すると思いますが、いただいたご縁を大切にすることが自分の人生を豊かにするものと考えています。

四季を彩る花々と野鳥

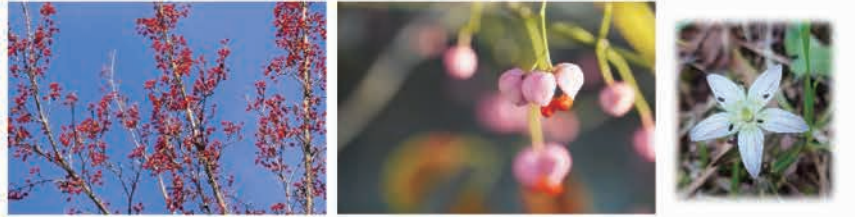
撮影：事務長 加藤久弥



最後に、自分を支え胸に刻まれた石垣りん詩集の『花のことば』をご紹介します。  
花の言葉は、「昔々、立身出世という言葉がありました。」から始まり、自分をとりまく人間のありようを簡潔にうたいあげています。そして、「唯 咲くことに一生懸命。いのちかたむけて、ひらくばかりの私たち。」と生きる美しさをイメージさせ、花たちが人間社会の抑制や束縛を不思議がる様子が描写されています。生命そのものをたたえ、喜ぶ花たちの生きる美しさを感じます。  
名刺の肩書きや権力欲ではなく、入所者の皆様や園長先生はじめ職員皆様のお気持ちに寄り添い、『花のことば』の想いで職務に精励しました。  
みなさまの笑顔や心遣いに励まされて、定年まで勤めることができました。  
ご支援に厚く感謝申し上げます。  
みなさまのご健勝とご活躍をお祈りして、退職の挨拶とさせていただきます。



総合診療棟屋上より望む栗駒山



## お世話になりました

副総看護師長 古川 喜美子

平成三十一年四月から、独立行政法人福島病院から昇任で。国立療養所東北新生園に赴任して参りました。赴任前にどんなところだろうと下調べをし、場所も施設の概要もおぼつかない状況で、それも看護師人生で初めての単身赴任でした。環境も全く違い、セブンイレブンがこんなに遠く、夜道も時間帯によっては対向車もほとんどなく何度も小動物に出会いました。官舎周辺にも住んでいるようです。

年号が平成から令和に変わり、噂に聞いていました、ゲートボールです。経験もなくルールも知らずどうしたものかと思っております。

ましたが、新生園の職員が集結し、第三十六回高松宮記念杯近隣親善ゲートボール大会にむけ、部活動と称し（私だけかな）勤務終了後に、先生・事務の方・看護助手の方、勿論看護師長さん達と練習に励みました。仕事以外の話や、普段あまり話す機会がなかった看護助手さん達とゲートボールのルールや技術を教わり、時に入所者のご夫婦の方にご指導・応援されながら楽しい時間でした。外部の監督を招いての部活動でした。ゲームで勝敗がかかっていますので、より一層チームワークを築けないかと考え、ユニホームを購入できないかと前事務長さんをお願いしました。選んだのはピンクでした。ピンクなんてと私を含め選手の皆さんも思われたことでしょうか、いざ試合の当日となるとピンクがかすむくらいでした。地域の皆さんには、「あなたたちはどのくらい練習してるの?」と聞かれること数回、強く見えたのでしょうか。ドキドキしながら勝負に挑みました。



入所者さん方の応援を受け、新生園チームは二勝一敗し、勝つ事が出来ました。秋の第二十一回寛仁親王妃杯女子コスモスゲートボール大会を最後に、新型コロナウイルス感染症が流行しチームは解散となりました。地域の皆様との交流の機会がなくなり寂しい限りです。感染症は収束することなく、ウイズコロナとなり、どうにか入所者さん方に楽しんでもらいたいと、令和四年に総合診療棟前、外の駐車場で夏祭りを実施したいと、総看護師長さんに提案しました。許可を頂き、介護長さん達と共に、他の職員を巻き込み、初めての夏祭りを実施しました。

大きな転機としては、令和二年に総合診療棟が完成し、六月に病棟の移転、そして令和四年九月には第二メープルケアセンターの集約と大きな看護単位の変化でした。入所者の皆様には大変気苦労が大きかったと思われるです。この場をかりて感謝致します。また他部署の皆様にも協力いただき感謝致します。

看護においては、平成三十年から「看護・介護体制の充実をはかるための取り組み」を看護師長さん達と共に取り組み理想の看護体制が令和三年に出来、「看護師・看護助手の定義と役割」を明確にしました。さらに看護助手のリーダー業務を導入し、より一層看護・介護が一丸となって、入所者様のライフサポートをしていこうと、取り組んでいる所です。スタッフの皆さんは各自が持っている力を発揮し、看護師長・副看護師長さんは、それを統合し出来るためにはどうすれば良いか考え、リーダーシップをとっていつて下さい。どうぞ現場において熱く看護・介護を語って下さい。そして入所者の皆様へよりよいライフサポートに繋がることを祈っています。

最後になりましたが、入所者の皆様・職員の皆様、四年間大変お世話になりました。

—ごきげんよう—



## 定年退職を迎えて

栄養係長 中里 敏 浩

東北新生園には平成十九年四月から平成二十四年三月までと令和三年四月から令和五年三月までの七年間にわたりお世話になりました。この度、三月三十一日をもちまして定年退職する事になりました。

国立病院、国立病院機構には昭和六十二年四月、当時の国立療養所岩手病院に採用となり、それから八戸病院、仙台西多賀病院、南花巻病院、青森病院、東北新生園、岩手病院、福島病院、山形病院、東北新生園と十施設に勤務させていただきました。

社会人となり、民間で四年間、国立病院機構で昭和六十二年から三十六年間、栄養士と

して四十年間勤める事が出来ました。

東北新生園では今回二度目の勤務となりましたが、新型コロナウイルス感染症対策による外部からの受け入れ、各種新生園行事等の自粛が余儀なくされ、入所者の皆様にはストレスの耐えない日々を過ごされる中、少しでも楽しんでいただけるよう日々の食事や新生茶房としてイベントの参加など安心・安全な食事の提供に努めて参りました。

思い出もたくさん頂きました。

新生茶房では、楓会の皆様にご協力を頂き、観桜会行事での「やきとり、大福、ドリンクなど」を提供、熱気球搭乗体験では「コーヒー、ポカリ、りんごジュースなどのドリンク」を提供、夏祭りでは「綿あめ、かき氷、ドリンクなど」を提供しました。看護課にご協力を頂き、綿あめの包装袋にキャラクターの絵を書いて頂きました。また、初めて提供することになったかき氷は、定番のシ

ロップいちご・メロン・抹茶に加えて、練

乳・あずき・手作りの梅シロップそしてブルーベリーシロップなどでも好評でした。

お盆行事では「ソフトクリーム、手作り梅ジュースなどのドリンク」を提供、ソフトクリームはバナラ・ストロベリー・チョコにトッピングとして、ブルーベリーソースなど用意させて頂き好評でした。セラピー犬ふれあい体験では「アイスクリーム、お菓子、ドリンクなど」を提供、コスモス観覧会では「ポカリなどのドリンク」を提供、収穫祭では「焼き芋、和菓子、りんごジュースなどのドリンク」を提供しました。焼き芋はホール中に焼き芋の香ばしい香りが立ち込め、とても好評でした。正月行事では「たこ焼き、大福、練り切り、ドリンクなど」を提供し、たこ焼きもとても好評でした。

また、園内にて収穫した山菜や果物を加工して入所者の皆様に提供することが出来て喜

んでいただけかなと思っております。

福祉室作業手の皆さんから収穫時期を教えてください、わらびはお浸しや生姜和えにして提供し、淡竹は煮物や金平風に、梅はシロップ漬や梅ジュースにして、ブルーベリーはソース、ジャムにしてヨーグルトやソフトクリーム、かき氷にトッピング、いちじくは甘露煮にしてヨーグルトにトッピングして提供することが出来ました。

収穫から調理まで行う作業は東北新生園ならではの出来たことであり、とても良い体験が出来ました。

東北新生園を最後に定年退職を迎えることが出来て、入所者の皆様そして職員の皆様には心より感謝申し上げます。大変お世話になりました。ありがとうございました。

## 「千畳敷海岸の旅」

齋藤 照雄

私は青森の千畳敷海岸の旅に友人から誘われ、喜んで参加をした。

築館インターから一路東北道盛岡を通過。秋田県大館インターで下り、休屋の橋を渡ったところにある食堂で昼食をとった。そして青森市の市場へ向かい、そこでスルメを中心とした乾物を買った。その後あらかじめ予約を取っていた宿泊先となる浅虫観光ホテルへと向かった。

フロントで手続きを済ませ、土産コーナーでお土産を購入し、それぞれの名前を書いてちはお城を見学した後、七号線へと戻った。鱈ヶ沢へ行く道の両端にはスルメがどっさりどっさりあった。私たちは青森市の市場で乾物を買った事もあり、うらやましげにその風景を眺めながら、目的地の地、千畳敷海岸へと到着した。

展望台から西側を望むと、まるで畳を千畳敷いたような広大な岩が、波に砕け日本海と海とマッチし、美しい景観を呈していた。私はその美しい景観を暇に焼き付けていた。しばらく南へ下ると西の方に突き出た丘があり、その食堂で昼食をとった。ふと来た方向に目をやると、またもや美しい千畳敷海岸が見えた。その美しさを暇に再度焼き付け、友人と車を走らせた。能代川を逆登り、岩手県盛岡を通過、宮城県築館インターで高速を下りた。町中の食堂にて夕食を頂いた。そこで食堂の主人らと青森の旅の話をし、花を咲かせ

ロッカーへ入れてもらった。ホテルの二階へ上がり、外を眺めると、荒波が岩に当たって砕けてみえた。「素晴らしい所にホテルが建っているんだな。」私は高所恐怖症であり、気持ちが悪いところがあった。しばらくして夕食の時間となり、友人と一緒に美味しい食事をご馳走になった。「消灯までお時間がありますので、ぜひ二階の温泉をお楽しみ下さい。」とホテルのスタッフが言った。私たちは温泉につかり、三人ずつ二階で分かれ宿泊した。翌朝五時起床。六時に朝食。それから出発の準備をする。荷物を整理し、ホテルのスタッフに礼を言って浅虫観光ホテルを後にした。

国道七号線をしばらく走ると、松丘保養園の通用門が左手に見えた。しばらく走ると左手にはリング畑が広がっていた。反対側には弘前の桜と並んで有名な弘前城があり、私たちがた。食堂を出て帰園の途に、そして新生園へ到着した。車を降り、別れ別れに寮へと向かったところで千畳敷海岸の旅が終わった。



# 令和4年・5年年末年始メニュー



12月24日夕食：クリスマスメニュー  
フライドチキン、かに甲羅グラタン、  
スープ、クリスマスケーキ、クリスマスカード



12月22日冬至南瓜 大晦日昼食・年越しそば



←大晦日夕食  
宮城の年越しは、  
やっぱり、  
「なめたガレイの煮魚」ですね。



元旦  
←昼食  
お雑煮メニュー  
お年賀カード

夕食→  
うなぎ蒲焼き、  
茶碗蒸し



## 2日

←昼食  
お寿司、いちご煮、  
あんぼ柿

夕食→  
鮭の焼魚、卵巻き  
そうめん汁



## 3日

←昼食  
お雑煮・  
おせち盛合せ

夕食→  
お刺身メニュー



## 新生文芸

### 詩

佐々木 洋一 選

### ◇ 入 選 ◇

《命にかかわるといふこと》

斎藤 照雄

私は善からぬ奴の暴力に  
両目両足を奪われてしまった  
そして耳もどこか  
遠くへ置き去られてしまった  
そのシヨックなのか  
どこをどうのた打ち回ったか

ベランダに倒れていた  
通りかかった  
担当のドクターとナースに  
発見された  
おでこにたんこぶをつくっていた  
床柱には髪の毛が  
二、三本付着していた  
ああ、そこに当たって  
気絶していたんだなあ  
ドクターは俺の体を揺さぶり  
「照雄、気は確かか」  
驚いた表情で私に声をかけた  
「うーん。はい。」  
「そこで聞くが、  
私がかつて糖尿病と診断し  
軽い食事療法を指示したが、  
私の留守の間  
それを守ってくれたかな。」  
というドクターの問いに

「いや、それが  
甘い物が食べたくなくて  
どんどん食べた。  
飲み食いも激しかった。」  
と私は答えた

目の前が暗くなって  
分からなくなっていた  
ドクターは私の顔を見て

「ああ、その甘い物と  
飲み食いの激しさが悪かったな。  
すぐにナースに

血糖値をチエックしてもらうから。  
血糖値が上がっているな。

インスリンの量を増やすしかないな。  
食事療法も厳しくするからな。

命に関わると聞いたこともあるから。」  
と言って去って行った

私はドクターの一言

「命に関わる」と言うことが気にかかり

よし、これからは  
暴飲暴食はせず、  
給食から出してもらうもの以外は  
何も食べまいと  
心に言い聞かせていた

### 【選評】

《命にかかわるということ》

斎藤 照雄

突然倒れたこと。原因は不摂生による糖尿病の悪化にあったこと。ドクターの命にかかわるといふ診断。そして、給食以外は食べないと決断するまでの一連の経緯が冷静にとらえられています。事の重大さがしつかりと伝わってくる作品となっています。

## 短歌

皆川 二郎 選

### ◇ 入 選 ◇

柏木 梅  
泥田にて根を啄める白鳥の白き羽毛は  
土にまみれる

### 【選評】

白鳥が冬の田に降り立ち、稲株などを長い嘴にて啄ばんでいる様子が表現され、その厳しさが実感される。厳しい冬の光景が具体的に焦点を絞って詠まれているために鮮明である。

今野 モトイ

稲束をはせに掛けてる父母を見つめる子らの背に赤とんぼ

### 【選評】

刈り取った稲をはせ掛けしている光景は最近あまり見かけられなくなつたが、自家用の米を美味しくいただくために、はせ掛けすることも見かけられる。その作業を見ている子供達の背に赤とんぼが止まっている。穏やかな情景が見えてくる一首である。

柏木 梅

山道に外灯のなく月明かり清かに冬の夜をふりそそぐ

### 【選評】

冬の冷たい山道が思われる。外灯はないが、月明かりが清かに夜

の道にふりそそいでいる。キリリと空気の澄み切った冬の光景が想像され、身の引き締まる感じにさせられた一首である。

今野 モトイ  
シヤキシヤキと足取り軽く雪を踏み朝は  
たわむれ遊ぶめの子ら

◇ 佳 作 ◇

菊 水  
この年は四枚のみの年賀状その少なさに侘しき覚ゆ

柏木 梅  
冬の日にひっそり旅立つ人ありてそつと驚きしんと悲しむ  
柿の木の高くなりたる昔より縮みし吾は実を仰ぐのみ



◇ 入 選 ◇

斎藤 照雄  
集団で咲いても寂し秋桜

【選評】 秋桜と書いてコスモスと読む。この句の素は、集団と言うにぎやかさと寂しやとの対にある。楽しく過ごす今日この頃、元気を授かった喜びと平らかな魂がある。

今野 モトイ  
青嵐小高き道を白杖ゆく

【選評】 みどのを吹きならす風。リハビリに励む小高い丘を行く、線の美しさに白杖の微笑むかすかな響き、途切れなく身を包む白杖の有難さ喜びが見えてくる。御健吟を祈ります。

万 両  
飾られた言葉いらなき冬銀河

【選評】 いきなり飾られた言葉いらなきと言われると、そうかその通り天の川でなく冬銀河すばらしく美しい流れが見えてくる。これからも人生を楽しく過ごされる事で飾らない言葉が生きて来る。

◇ 佳 作 ◇

斎藤 照雄

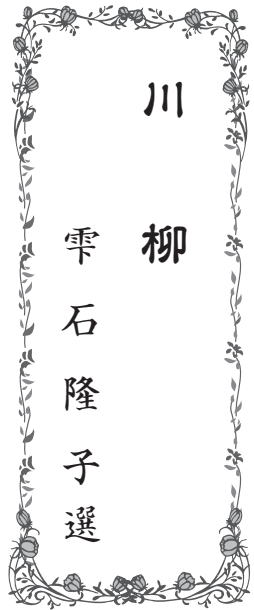
思い出す家族団欒収穫祭  
ジタバタしてもしょうがない年越しだ  
門松を立てて正月祝いけり  
あの頃の正月楽し懐かしや  
羽根を突く乙女らの声清々しい

今野 モトイ

雪嵐途切れ途切れの薄陽差し  
方言を字には書けない面白さ  
行きたびのドアを開けつつ初陽見る

万 両

ヒヤシンスの香りさやかに退官日  
黄昏に光りあまねく卒業期



◇ 入 選 ◇

《天位》 斎藤 照雄

泣き笑いしながら米寿へスタコラサ

【選評】 米寿を迎えた照雄さん、おめで

とうございます。まさに作品の通り、泣き笑いの人生だったのでしよう。下五の措辞がすべてを物語っています。懸命な歩みをオノマトペに託し、見事な生き様です。



《地位》 大平 尚拓

米を研ぎ指先赤く母思う

【選評】

日常茶飯の家事から母を思う。幾つになっても母は懐かしく尊い。冬の寒さの指先の赤に母を感じる。作者の感性の素晴らしいことが分かります。

《人位》 長沼 蓮花

四年振り帰省に父の照れ笑い

【選評】

コロナ禍で会えなかった家族の帰省。ようやく自粛生活からウィズコロナになり、再会が出来ます。嬉しさを「照れ笑い」にするお父さん。男とはこのようなものでしょうね。

◇ 佳 作 ◇

千 步

子も孫も雑煮の湯気に笑い顔  
初詣コロナ退散手を合わす  
みぞおちに沁みる珈琲夜勤明け  
スッキリと夜空に心洗われる

大 平 尚 拓

初詣並ぶ多さに引き返す  
家帰りストーブつけて手をかざす

長 沼 蓮 花

父亡くす甥も立派な新成人  
賑やかに正月迎えし三年目  
デイに行く祖父は家とは違う顔

斎 藤 照 雄

涙拭くその眼は明日へ光った  
辛抱のこの木にやっと花が咲き  
たくましい父の背中を見て育ち

千本桜達成の記念植樹式典を終えて

福祉室長 菅原政敏

今から時を遡って昭和十三年四月。この時に創設された施設を、昭和十四年十月に厚生省より移管され、当園は「国立療養所東北新生園」として開設されました。

開設後、入所者の方々が当時十四銭で、桜の苗木を購入し、植栽を行ったと聞いております。その桜の木には、それぞれの植えた人の思いが込められ、植栽を行われたことと思えます。

植栽を行ってから約八十年、桜通り・睦橋周辺・睦ヶ池周辺と桜並木が今でもしっかりと桜の花を咲かせています。  
以前は、この桜並木の下で観桜会や夏祭り



の花火大会観賞を行う等の様々な催し物が行われて、それぞれの思い出が作られてきました。



夜の「さくら通り」



桜からの木漏れ日



入所者の方々と東北新生園で共に暮らし、春には綺麗な白色または桃色の桜の花をパッと咲かせ、入所者の方々・職員の方々の心を

新しい桜の友



「睦ヶ池」のライトアップ(観桜会)

癒やし続け、夏の雨・風に耐え凌ぎ、秋には木枯らしに吹かれ、冬の大雪にも耐えてきた姿は、まるで人間の風貌を思わせるような姿に見えてきます。

そしてまた春がやってきて、綺麗な桜の花を咲かせ、その時その時にこの東北新生園で過ごしてきた方々と触れ合い、心を癒やし頑張ってきた桜の木達が、ここ数年間で新しい友(新しく植栽した桜の木)を迎え、中には残念ながら枯れてしまった桜の木もありましたが、思いを引き継がれ今日まで桜を満開に咲かせてきておりました。

時は変わって二〇二〇年。この年から始まった桜の植栽は、東北新生園で生涯を終えた入所者の慰霊を兼ねて、その亡くなられた方々の数(物故者数)と同じ本数を目標としておりました。その後、久保会長の東北新生園を市民の方々が集まる桜の名所にしたいとの思いも込めて続けてきた千本桜の植栽が、つ

いに令和四年十一月、ここ東北新生園に千本目の桜(友)を迎え入れる体制が整い、さらにはホール東側へ植栽を行う運びとなりました。

これにより各部署と日程調整を行った結果、令和四年十一月二十二日開催として、久保会長始め、園長他幹部の方々、入所者の方々に見守られ、千本目の桜(友)を迎えるべく、イベントとして千本桜達成記念植樹式典を行い、心を込めて迎え入れることができました。久保会長並びに式典に参加された方々一人ひとりが、「千本桜の郷となりますように」、「大きく見事な桜の木になりますように」、「綺麗な桜の花が咲きますように」等の様々な思いを込めて植栽を行っていたことでした。

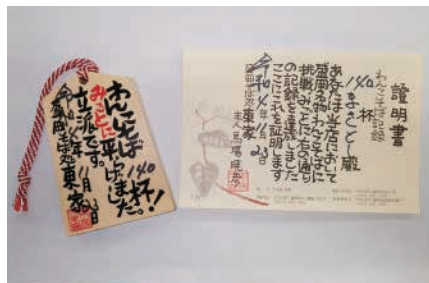
今後も桜の木(友)達により世代交代は行われて行くかとは思いますが、私にとつてこの日は、末永くこの千本桜を見守って行きたいと感じた日となりました。入所者のみなさ

ん・職員のみなさんもこの桜の木(友)達が元気に育つように、今後お力添えをお願いしたいと思います。

なお、余談ですが、この千本桜達成記念植樹式典の翌日、個人的にも何か記念となることを残したいと思い、初めて盛岡市内の「わんこそば」を食べに行きました。

結果は、写真を見てのとおり、私なりの結果を爪痕として残すことができました。

これじゃあ、こんな体型にもなりませんわなあ。それなのに最高記録には、まだまだ及ばず。(笑)



※同店での最高記録  
男性 500 杯、女性 570 杯

## 定年退職を迎えて

副看護師長 川 名 久美子

私は、平成十四年十月に不自由者棟夜間看護センター開設に伴い採用となりました。入職時にも、新生誌の原稿を依頼され「入所者の皆さんに寄り添えるように看護して行きたい。」と書いたことを思い出しました。早いものであれから二十年経ちますが、今回定年退職にあたり再び原稿の依頼を受け、振り返る機会を頂きました。入職時の入所者様の人数は二〇〇名と記憶しています。民間病院での経験しかない私は、そんなに覚えられるかと不安に思いましたが、春・秋に行われるカラオケ大会や運動会、パネル展などの行事を通して、入所者の皆さんとの関わりを持つこ

とで、いつの間にかその不安は消えています。行事の中で今でも忘れられないことがあります。春の観桜カラオケ大会のことです。先輩看護師からは、新入職員が出ることになっていないと聞いていましたが、同期入職が五名だったこともあり、まだ大丈夫と勝手に高を括っていました。その時は急にやってきました。あらゆる理由をつけて抵抗しましたが願いは叶わず、気がつけば恐れ多くも美空ひばりさんの「川の流れるように」を二人で歌っていました。歌詞を見ないで歌うように言われていましたが、大勢の前で歌うことなどほとんど経験がない私達は、手のひらに歌詞を書いたカンニングペーパーを忍ばせ、それを見ながら歌った為、終始下を向いて歌っていました。時々センターでカラオケ大会のビデオを見て楽しんでいますが、心の中では私が出ている大会ではないことをいつも祈っています。話が逸れてしまいました。カ

ラオケ大会が無事終わったのも束の間、後日、カラオケ出場者の慰労会があり、中央集会所に行くよう看護師長から言われ、軽い気持ちで行きました。慰労会も終盤にさしかかった時、参加者で一曲歌うように催促され、予期しないことだったので「えっ」と大きい声を出して驚いていると、カラオケの会長から「ここは神聖な場所だ。女学生じゃないんだからそんな声を出すな。」と一喝され、その時初めてカラオケ大会を運営する入所者の思いを知り、最後まで一緒にカラオケ大会を盛り上げることを考えず「歌ったら終わり」とどこかで思っていた自分が恥ずかしく、今でも申し訳なかったと反省しています。

少しずつ、自分の経験も増えて行く中で、入所者様の高齢化も進み運動会やカラオケ大会の中止などが相次ぎ、以前の活気がなくなりつつあることがどこか悲しくもあり、寂しくもあります。今、改めて考えれば看護師と

して病院で働いていれば患者様との関わりは長くても三ヶ月に満たない。入院の短縮化もあり、平均すると一ヶ月前後となっています。それを自分に置き換えて考えると、一人一人の入所者様と二十年もの月日を共に過ごせたことは、誰しものが経験できることではない。入職時に思った「入所者様に寄り添う」ことが達成できているのか答えははまだわかりませんが、入所者の皆さんに教えて頂きながら、ここまで働くことが出来ました。日々の関わりの中でご迷惑をかけたことも多くあったと思います。

入所者の皆様、本当に感謝しております。ありがとうございます。

## 思い出

介護長 狩野京子

この度、令和五年三月三十一日をもちまして定年退職を迎えることとなりました。昭和六十一年から看護助手としてお世話になり、平成、令和と三十七年も過ぎてしまいました。

初日の四月二十一日当園は、桜通りの桜が満開でとても綺麗だったことを鮮明に覚えています。いまはその桜の木は老木となり半分は伐採され若い木が育っています。最初の勤務場所は栗駒、楓、といま、松風、北斗寮五棟で迷子になりそうでした。今はさくらホール、さくら公園になり建物は残っておらず、当時入所者の方は歩いて治療棟へ行く方も多く、春からは草取り、冬は雪かき作業を行います。

いらっしやいます。私の記憶も曖昧になってきましたが、いっぱい思い出話に役立てればと思います。この原稿を書きながら喜怒哀楽、色々なことが思い出され懐かしく思います。

最後になりますが、入所者の皆様、職員の皆様、沢山の出会いがありました。三十七年間大変お世話になりました。三十七年。どうかお身体を大事にし、お過ごし下さい。本当にありがとうございます。

ました。雪も多かった気がします。その頃は入所者の方も庭で花や野菜を育てたり、盆栽を作っている方もおられ、私の結婚のお祝いにと「春」と名付けられたサツキの鉢植えを頂きました。今でも毎年庭で白い花を咲かせています。

入所者の方々の趣味も多彩で、盲人の方は俳句や短歌、川柳をつくり新生誌や新聞に投稿する方も沢山いらっしやいました。代筆をするのに難しい言葉が多く辞書を片手に四苦八苦したものです。

沢山の行事もあり思い出されます。カラオケ大会は三回出させて頂き、デュエットの好きな入所者の方に誘われ一緒に歌ったこと、運動会では寮対抗のリレーに出て走ったこと、入所者の方も若く元気で一緒に競技に参加したり応援したり賑やかで楽しかったです。仮装行列もありましたね。今、入所者の方との会話の中で昔の思い出話をされる方も



## 定年退職を迎えて

看護師 高崎 あけみ

この度、令和五年三月三十一日を持ちまして、定年退職を迎える事となりました。

思い起こせば、平成十七年七月に産休代替として勤務させて頂く事となり、今日に至ります。入職時の入所者数は一七〇名で、当時には運動会、ゲートボール大会、バス旅行、文化祭、花火大会、カラオケ観桜会等のレクリエーション活動や年間行事が数多くあり、皆様の活気あふれる姿が、走馬灯のように思い出されます。その中でもカラオケ観桜会は、大変思い出深いものになっております。平成十八年四月のカラオケ観桜会に参加し、『岸壁の母』を歌わせて頂きましたが、その事を

切っ掛けに翌日から、これまでの『看護婦さん』ではなく、『岸壁さん』と親しみを込めて呼んで頂けるようになったのです。その後、クリスマス会や雛祭り会、お楽しみ会等のイベントがある度に、モンペ姿で皆様と一緒に、『岸壁の母』を歌って楽しんで当時の事が、今では懐かしく思い出されます。

悲しい歴史を背負いながらも、懸命に生きて来られた入所者の皆様と共に同じ時間を過ごせた事で、多くの事を学び、日々皆様に教えられ、励まされ、助けられる事ばかりで、本当に感謝に堪えません。

今年になり、入所者数は三十二名となりました。長く続くコロナ禍で、入所者の皆様と肩を寄せ合い、思いっきり楽しみ合ったり、一緒に歌う事も難しくなっております。このような状況下でも感染対策を講じつつ、私達スタッフは、「入所者の皆様に少しでも今を楽しんで頂きたい」「より元気になって頂き

たい」という一心で、創意工夫をしながら色々な事を熱心に取り組んで参りました。更に皆様一人一人の大切に行っているものを共に大切に、意向に寄り添い、細かな所まで配慮が行き届いているスタッフや、家族のような心持ちで親身になって温かく関わっているスタッフを目の当たりにし、改めて看護の原点を学ぶ良い機会となりました。

最後になりますが、これまでの十八年間、無事に定年まで勤める事が出来ましたのも、入所者の皆様の温かい励ましのお言葉、職員の皆様の支えがあつての事と感謝の念に堪えません。今後の人生に於いては、皆様からの沢山の教えや経験を大切にしながら、これからの人生の糧にして参りたいと思います。

入所者の皆様、職員の皆様、

お身体を大切にお過ごし下さい。

これまで大変お世話になり、

本当にありがとうございました。

『感謝』



# 四コマまんが

作・太田 凜

